

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070401627		
法人名	社会福祉法人 鷹羽会		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目9番6号 (電話) 093-592-3605		
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 15 日	評価結果確定日	平成 28 年 2 月 5 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同じ敷地内に同一法人の運営する軽費老人ホーム、デイサービスが併設されており、軽費老人ホームに関しては開設して37年の歴史を持ち、開設当初より地域に根ざした施設であろうと、地域の方々との繋がりを少しずつ手繰り寄せするようにして築いています。また、年中行事は同一法人共同開催により、多くの人が行き来して活気に満ちており、交流の場としても一役買っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 27 年 12 月 10 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、都市高速インターから車で数分と交通の利便性がよい住宅街のなかにあり、2階建2階部分に1ユニットのグループホームである。1階にはデイサービス、隣接には昭和35年開設の軽費老人ホームがある。歴史ある法人の中で地域とも密接に関わりを持ちながら地域の介護ニーズに対して貢献をしている。管理者をはじめ職員は、家庭的な雰囲気の中、介護が必要になっても心豊かに暮らせるように方針を掲げ、笑顔のある暖かなサービスの提供に努めている。健康管理についても協力医療機関との連携もあり安心して生活ができるようになっている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【1 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼、GH会議、全体会議には必ず理念、方針を唱和し皆で確認し合っている。	法人全体の理念に沿って、事業所独自の理念がある。その理念は、毎朝の朝礼で唱和し、月1回の定例会議の場でも話す機会を設けている。職員は、月ごとに理念の実践を行うための具体的目標を定め、利用者とのコミュニケーションや地域との繋がりなどを大切に日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の年中行事に参加したり、納涼会等に地域の方を招いている。グループ全体で、出向いたり招いたりしながら交流を重ねている。	町内会に加入し、様々な地域活動を通じて交流がある。清掃活動や廃品回収、地域の夏祭りなどに出向いている。また、事業所主催の夏祭りや編み物教室などを開催し、近隣住民が参加している。地域の会合の場として法人内の会議室を提供したり、近隣の学校の生徒の体験学習を受け入れたり、日常的に地域との付き合いがある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の敬老会等お手伝いさせて頂く機会に「グループホームとは？」等の冊子を配り、施設の紹介と見学や相談は随時可能であることについて伝えて必要な方への支援に繋げている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で参加者全員で意見交換を行い、質の向上に繋がるように努めている。最近の利用者家族からの提案として、「テレビ画面で本人や家族の映像を流すと記憶が甦り脳を刺激することに繋がるのでは」との意見が出ており、実践して生活の質の向上に活かされている。	2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、利用者、家族や町内会長、地域包括支援センター職員の参加があり、意見交換が行われている。利用者の状況や事業所の取り組みなどを報告している。話し合いの結果、自治会と防災協定や訓練についての見直しや編み物教室の開催が行われたりと日常生活の質の向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やGH協議会の繋がりにて相談や相互に情報提供して頂きサービスを停滞させることなくモチベーション共々良い関係を築いている。	グループホーム協議会へ参加しており、そのなかで行政との意見交換を行う機会がある。日頃も行政窓口へ電話やファックスで相談したり、事業所便りを配布するなどより良い関係づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関施錠せず、チャイムにて外出する事が分かるようになっている。職員が対応できる限り自由に外に出て頂き後ろからそっと見守り介助を行っている。夜間のみ玄関施錠している。身体拘束研修に関しては内外部の研修を受けている。	職員は、身体拘束廃止への認識を持つために、定期的に話し合いや研修を受講している。夜間以外は玄関の施錠はせず、利用者の外出傾向を把握し、一緒に散歩を行い支援している。その他の身体拘束についても原則、拘束をしない方針で取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の内容を再確認するため毎年研修を行いニュースや事例をもとに発生した事由等考える機会が多々あり虐待予防に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年1回会議時に権利擁護についての説明をしている。必要時に知識として活かせる様事例を挙げている。	権利擁護や成年後見制度について、契約時や必要時に家族へ説明を行っている。職員は内部研修で学ぶ機会があり、制度について理解を深めている。制度の活用時には管理者を中心に話し合いが行われるように体制を整えている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年1回ご家族に来園して頂き契約時の確認や改定時の説明、今後の状態変化に対する心構え等説明し信頼関係が築けるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族の方は輪番制を限りあるがとっておりその際に出た意見や面会時に話の中から汲み取れる内容はスタッフが情報共有し活かせるよう努めている。	日常的に、利用者の担当職員が中心になって耳を傾けている。その結果、日課や行事の企画に反映されたりしている。また、管理者は家族との面談会を行い、様々な意見を取り入れ、運営に反映するように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や全体会議時に意見交換しており管理者が代表者に繋げるパターンが多い。	管理者は、職員の気付きやアイデアを取り入れるようしており、風通しの良い関係づくりに努めている。そのなかで研修の機会が増えたり、日課業務の改善が図られワークライフバランスに配慮したシフトになるなど、様々な意見が運営に反映されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用形態の改善は代表者に掛け合っている。希望休、年休が取れる事により、リフレッシュできる環境づくりに取り組んでいる。		
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	認知症について理解でき意欲的で真面目な方を採用するようにしている。スタッフは適材適所に配置しモチベーションが維持できるよう努めている。	職員の募集・採用については特に制限なく、行われている。定年後も体力気力があれば雇用を継続している。シフトにおいても年配の方への配慮や希望休、年次休暇取得支援など、働きやすい職場環境づくりに努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	10	○人権教育・啓発活動  法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	今年に入居者と職員が共にグループ全体で人権研修を行っている。	職員への人権教育・啓発活動に関する取り組みについては、年1回程度、全職員が参加できるよう配慮し、内部研修を計画、実施している。テキスト、パンフレット、研修記録、報告書などが整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は定期的に行われており、外部研修に関してはできるだけ多く行く機会を持ち他施設との情報交換等で向上心が更に芽生えるよう努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県のGH協議会、北九州の高福協に所属しており年間研修計画に則って参加して学び、職員同士の交流も出来ている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係  サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や利用時話しやすい環境づくりを行い、想いをしっかり聞き取り安心が得られるよう施設での対応を丁寧に答えるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用するにあたり入居する経緯を掘り下げて聞き取りし、家族、本人の想いを受け止めながら時間をかけて不安が解消出来る様努めている。		
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りによりサービス内容を細分化しスタッフミーティングにより必要なサービスを導き出す努力をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として料理やしきたり、人との付き合い方等の学ぶ点が多くまた一緒に出来る事を行うことでより関係を深め共存している事を感じている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家事活動等作業時家族の事をさりげなく尋ね今ここに居なくても一緒に支えている事を感じてもらえる様話の中に織り交ぜながら大切な人を再確認して頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り住んでいた場所の近くを車で通りどういった暮らしをしていたのか自ら語られる場面を作れるよう努めている。	管理者・職員は利用者の馴染みの場所や人について把握し、関係継続の支援を行っている。日頃、交流を図っている近隣住民と散歩時に挨拶を交わすなど、顔なじみの関係性が築かれている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方や言語不明瞭な方等関わりが薄くなりそうな方には自然にスタッフが介入し輪を取り持つ様努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談等応じる事を家族に伝えている。亡くなった際に連絡を頂く事もある。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時や面会時に家族や本人に生活歴を話の中から拾い出しケアプランに反映させたり得意な事を全面に出せる様努めている。	周辺の散歩など、その日の体調や顔色などに配慮された声掛け、誘いなどがなされている。又、ご利用者自身や家族の趣味、嗜好など事前の把握が成され、ケアの質を落とさない工夫や配慮がなされている。更に、意思の疎通が困難な利用者には、都度の家族への連絡、家族の気持ちに配慮する形での最終確認もなされている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独り暮らしをずっとされて共同生活が苦手な方など個々の想いや洞察力を身に付け支援の方向性を見極める材料としている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	加齢に伴う体力低下等休息を挟んで無理のない個々の生活スタイルを尊重しつつメリハリある活動を織り交ぜている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人に聞き取り、課題に対し会議時に意見やアイデアを出し合い実践している。	家族には、利用者の状況を説明し、計画の了承、署名、押印を頂いている。また、本人の話や心身の状態観察を行いながら、状態及び状況の変化に注意し、側に寄り添う様な支援に心がけがなされている。更に、6か月を基本に、職員会議等で出された意見を集約し、本人及び家族の意向に沿う定期的な見直しもなされている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入浴を拒む方に対しての声の掛け方等情報を交換し受け入れてもらえる事に繋げる努力をしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設との関わりもありその方の希望する事があれば参加できる体制は整っているがその他の事はスタッフで知恵を出し合い対応できるよう努めている。		
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方が手芸の先生を努めたり近隣を散歩すると声を掛けてもらったりとこの地域で暮らしているという実感が湧く瞬間を感じてもらえる様努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られなかったかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望によりかかりつけ医を決定している。状態変化時は逐一家族に報告し必要時にはかかりつけ医、家族、本人、管理者で今後の治療方針を話し合う事もある。	受診の際には、事前に家族へ連絡し同意を得て、受診介助を行っている。その際、診察の内容は家族に都度の報告がなされている。また、受診結果、増悪や新たな治療方法などDrからの処方があった際には、家族にも再度の確認を行ってもらえる様に取り組みがなされており、家族との意見交換や支援方法など双方での情報の共有がなされている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	DS、軽費老人ホームが隣接しており急変時は看護師に対応してもらったりしている。訪問看護師利用時は報告、相談をしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は病状把握に努めるため訪問し認知症が急速に進行しないよう退院のタイミングを病院と協議しながら支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行っておらず入居時、年1回の家族面接時に再度説明し重度化した場合の家族や本人の意向を確認した上で、次施設についての説明を行い支援する事を伝えている。	事業所内で、重度化、終末期の方針、対応について入居時に家族に説明、事前了解がなされている。また、入居後、状態の変化等現状に対し、再度の説明、都度の同意も得ている。更に、増悪時には、主治医と施設側、双方が話し合いを行い、要介護3以上の状態になれば、特養などの事前申し込みを家族にもお願いし、共有方法の徹底が成されている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時等の対処法を避難訓練時後に行っており年1回市主催の救急の研修に参加している。		
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており町内の災害協力協定書を交わしている。	毎年3回避難訓練を行っており、夜間も想定して行われている。訓練の際には、地域住民にも事前連絡し、参加いただいている。また、法人全体を一つの地域と捉え、3回の訓練の内1回は法人全体で行っている。消防署立ち合いによる消火訓練も行っている。通報や誘導手順の徹底や、AEDの講習会等も実施している。非常用食料と備品を事業所内に用意している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には敬語での対話であるが臨機応変に対応する事もある。尊厳を軽視しない言葉を選ぶ事に努めている。	排泄、入浴介助の際など、プライバシーに配慮し前身をタオルで覆うなどの配慮がされている。また、施設内であった事は、関わる職員のみで、外部に情報を出さないようにしている。更に、利用者の尊厳や自尊心に配慮し、職員からの高圧的な態度や命令口調などにならない様に気を付けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ヒントをいくつか並べ選択して頂ける方、本人の思いを読み取る力を日々の生活の中から理解出来る様支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動性のバランスを見ながら本人の希望や状態にあった過ごし方を提供している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する髪型を美容師に伝えたり着る洋服を一緒に選んだりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	不定期に利用者の希望するおやつと一緒に作っている。野菜の切り込みや盛り付け片付けは普段から一緒に行っている。	動作、行為が出来る利用者には、準備や食事、片付け、食材の買い物にも一緒に出掛けている。食事は、職員が同じテーブルで声掛け、見守り、会話を交え同じ献立を食べている。また、同一法人内には栄養士が配置されており、バランスの良い食事が提供されている。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立であり 量や形態は個々に合わせている。食事量水分量チェック表がありスタッフが一目で共有できるようになっている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、誘導、介助と個々に合わせた口腔ケアを行っている。毎年歯科検診を全員受けており治療の必要な方を早期発見できている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し時間ごとに誘導している。時にそわそわする等サインがある方は声掛け誘導しトイレでの排泄を心掛けている。	利用者それぞれに常同行動があるので、そこを職員間同士で情報を共有し、取り決めをしている。また、排泄表を作成し、排尿リズムの把握に努めている。失禁後の臭いなど、後処理には配慮し、定期誘導も行われ、心身の状態変化があれば、使用する排泄用品の種類も変えて、都度の見直しを検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や飲水量を意識し排泄チェックにて便秘の方を確認している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週3回を基本とした午後個浴を実施しており本人の意向に応じて回数はまちまちである。	原則、毎日でも入浴希望があればいつでも行える環境にある。本人、家族とも相談し、最低でも2日に1回の入浴が行われている。また、入浴拒否があれば、時間をずらし、一度、本人が落ち着ける馴染みの環境で再度の誘導を行い、入浴の実施が出来ない時には、清拭や足浴、更衣など代替した取り組みがなされている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操やウォーキング等身体を動かす機会を作りつつ、体調によりいつでも休息しやすい環境を提供し、特に昼食後は疲れの自覚困難な方もいる為休息を推奨している。		
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	降圧剤や安定剤等は、加齢や体重変化で効き目に変化することから、日々の観察で変化を確認した場合は、かかりつけ医に報告、指示を仰ぐようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を最大限に活かせるよう俳句や裁縫等自然な生活の流れで発揮して頂いている。また若いスタッフの先生役でもある。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にドライブに出掛けておりそれ以外に天気の良い日に「どっか行こうやっ！」の利用者の希望により出かける事もあり柔軟に対応する事を心掛けている。	原則、熱発等で状態に異変がなければ、天候次第で、毎日でも散歩をしている。また、買い物は毎月1、2回程度、ドライブは毎週1回、外食も6か月に1回程度行われている。更に、家族等の協力も得ながら、「若松のかんぼの宿」など普段行く機会の少ない場所への外出も行われている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意向により少額所持しており自動販売機や移動売店で自分で商品を選び支払いをしている。また施設でお小遣いを預かっている方も本人の希望に沿って買い物する機会がある。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状をスタッフが補助しながら書いている。電話の取次はスタッフが行っている。また近況については毎月写真入りの花みずき便りを家族に郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節の花やタペストリーを飾り、天窓からの自然光を取り入れ、在宅時と同じように普通の生活音や調理の匂いに囲まれた環境で、穏やかに暮らせる空間を目指している。	加湿器や紫外線を活用したウイルスでの空気感染を予防する機材が設置されて、健康に配慮されている。日当たりが強ければ、カーテンの開閉で調整するなど居心地よい生活環境になっている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数用のテーブルやソファなど自由に行き来する事が出来るように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タンスや食器等愛用していた品々を持ち込んで頂き自分の部屋として落ち着いた生活ができるよう支援している。</p>	<p>写真や仏壇、テーブルや椅子など利用者にとって落ち着ける、馴染み深い物が自宅から持ち込まれ、程良い生活環境になっている。</p>	
57	—	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>食堂兼ホールは全居室に面しており壁には手すりを設置しそれ以外は車いすが通れる広さを確保することで、動線上は動きやすいように配慮している。</p>		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
			○	③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
			○	③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
			○	③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない